



図 6.2.2-17 マント群落・ソデ群落の植生状況の推移 (N-4.1 北側)



図 6.2.2-18 マント群落・ソデ群落の植生状況の推移 (N-4.1 南東側)



図 6.2.2-19 マント群落・ソデ群落の植生状況の推移(N-4.1 南側)



図 6.2.2-20 マント群落・ソデ群落の植生状況の推移 (N-4.1 西側)

b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南東側、南側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.2.2-12 に示した。また、調査地点の植生の変化を図 6.2.2-21～図 6.2.2-24 に示した。なお、調査結果には、過年度結果についても掲載し、植生の推移を分かるようにした。

無障害物帯は、平成 22 年度末に樹木の伐採が行われた後、地形が現状のまま保全されていたことから表土が維持され、埋土種子からの発芽による実生株や周辺からの草本類の侵入により、平成 23～24 年度には裸地部等に緑量が増加している。平成 26 年 1 月の調査では、植被率 90～100%、出現数 9～24 種となっており、草本類で覆われている。以下に各地点別の植生状況の変化について述べた。

北側では、昨年度の最後の調査(平成 25 年 1 月)では、草丈が 0.5m、植被率が 30%、出現種 27 種であった。平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月までの変化は、草丈が 1.0m から 1.2m、植被率が 60% から 90%、出現種は 23 種から 24 種へと変化した。平成 26 年 1 月の段階では、草本類のススキ、コゴメスゲ、ハイシロノセンダングサが優占していた。

南東側では、昨年度の最後の調査(平成 25 年 1 月)では、草丈が 0.5m、植被率が 40%、出現種 21 種であった。平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月までの変化は、草丈が 0.8m から 1.0m、植被率が 50% から 90%、出現種は 22 種から 18 種へと変化した。平成 26 年 1 月の段階では、草本類のススキが優占していた。

南側では、昨年度の最後の調査(平成 25 年 1 月)では、草丈が 0.8m、植被率が 50%、出現種 22 種であった。平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月までの変化は、草丈が 1.0m から 1.3m、植被率が 70% から 100%、出現種は 24 種から 19 種へと変化した。平成 26 年 1 月の段階では、草本類のススキとコゴメスゲが優占していた。

西側では、昨年度の最後の調査(平成 25 年 1 月)では、工事のためブルーシートに覆われており、平成 25 年 4 月時点では植生は存在していなかった。その後、緑化が行われ、平成 26 年 1 月の段階では、草丈が 0.2m、植被率が 100%、出現種は 9 種となっており、草本類のシバが優占していた。

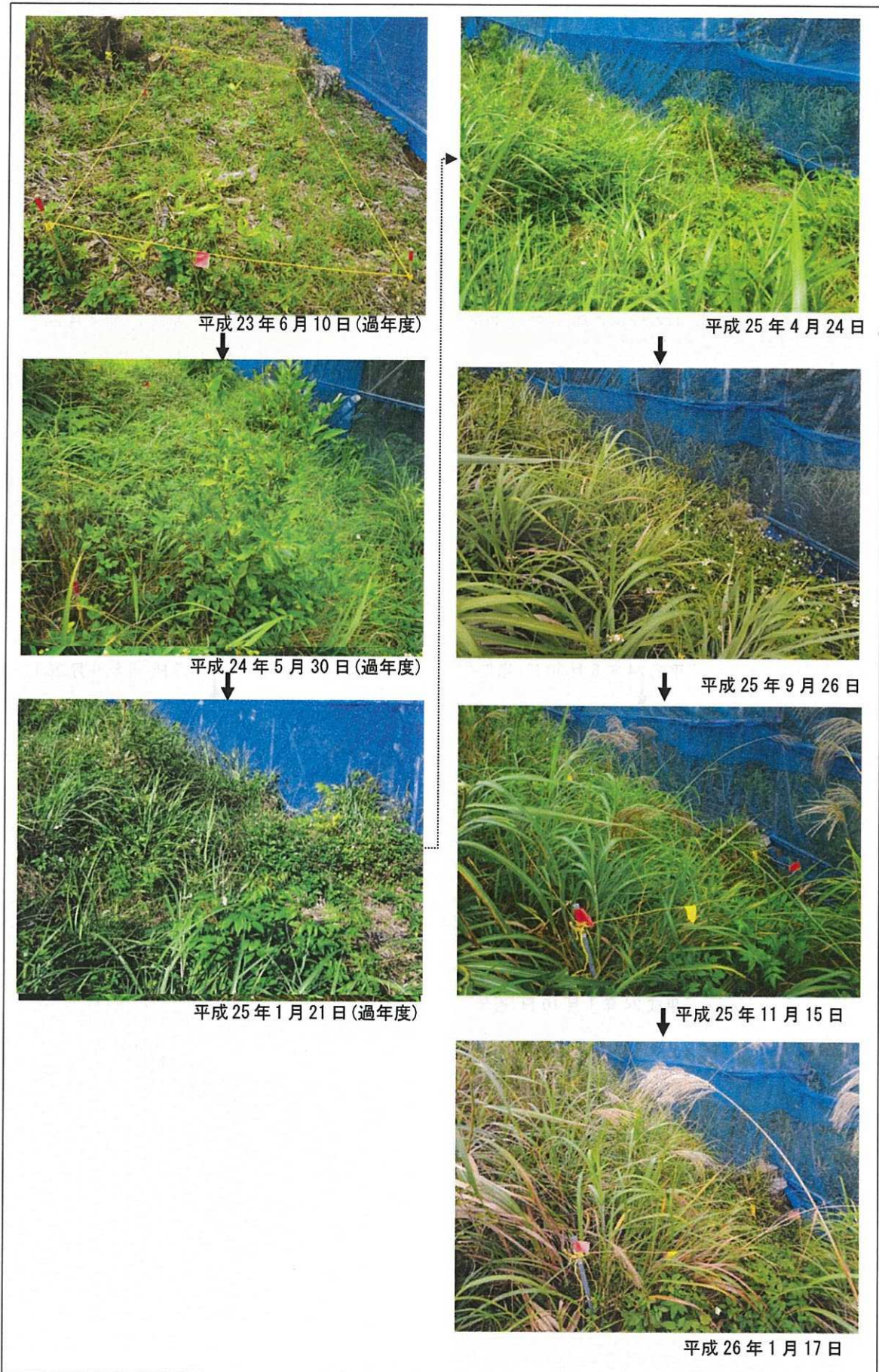


図 6.2.2-21 無障害物の植生状況の推移(N-4.1 北側)

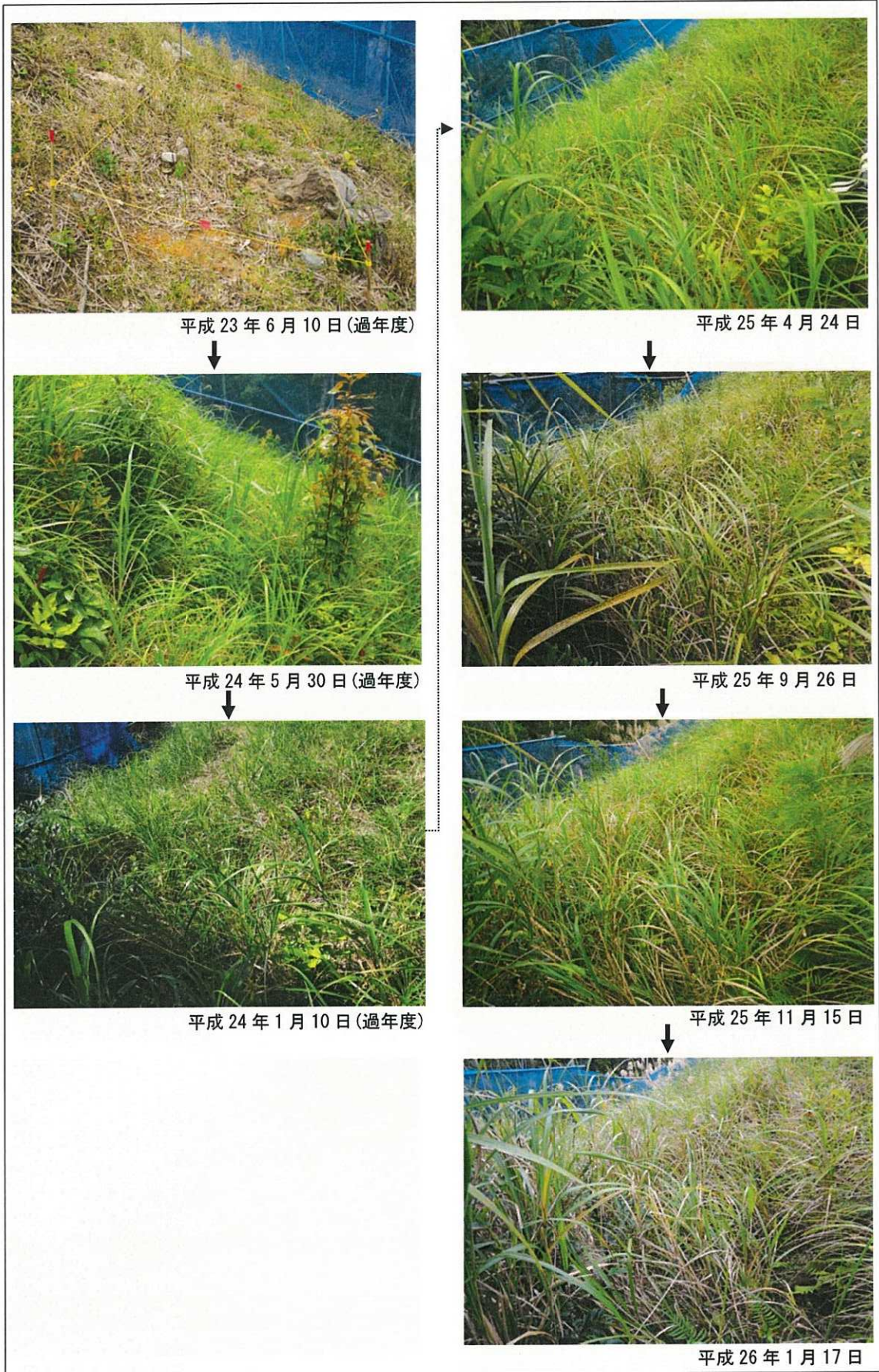


図 6.2.2-22 無障害物の植生状況の推移 (N-4.1 南東側)

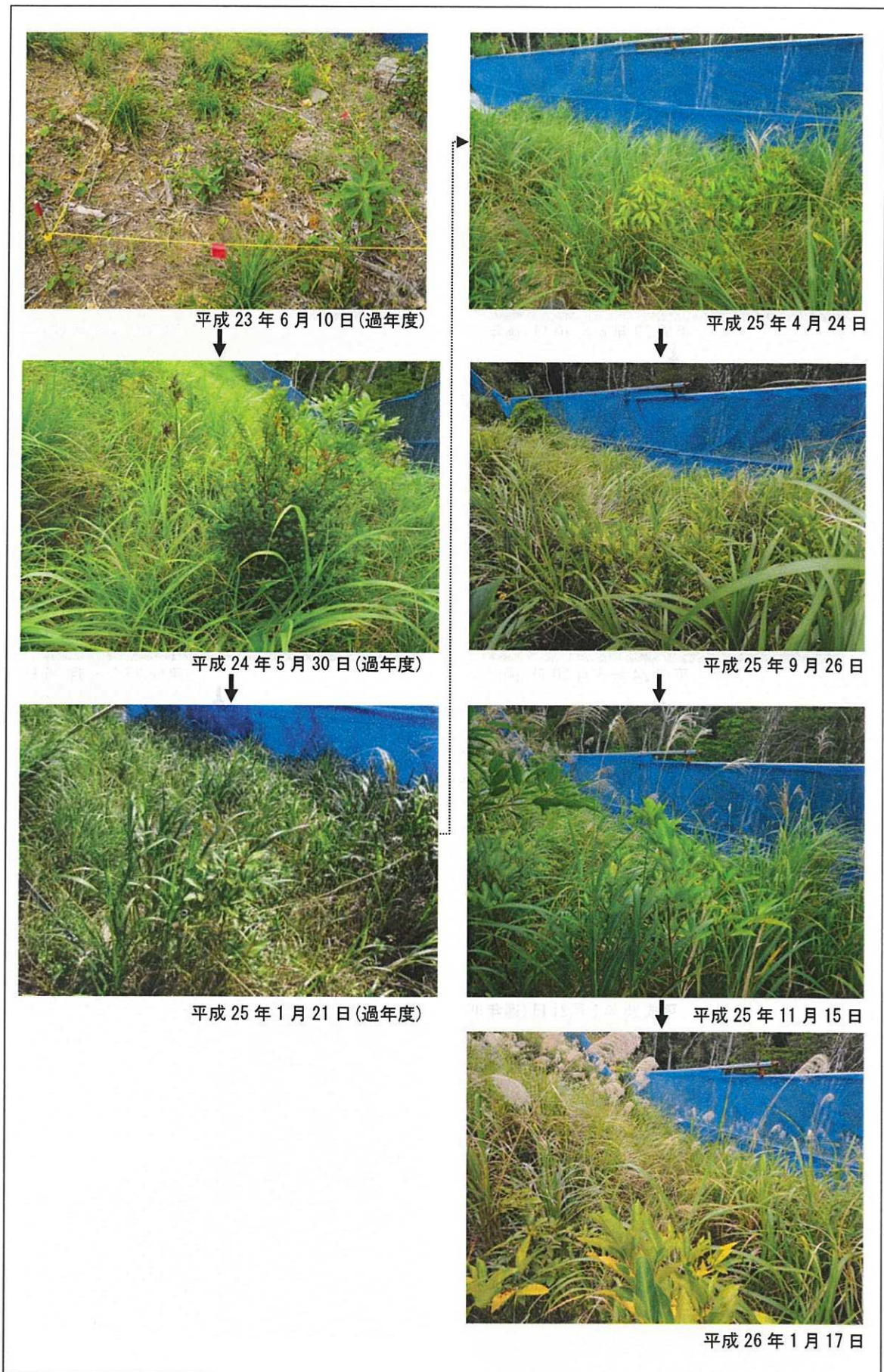


図 6.2.2-23 無障害物の植生状況の推移 (N-4.1 南側)

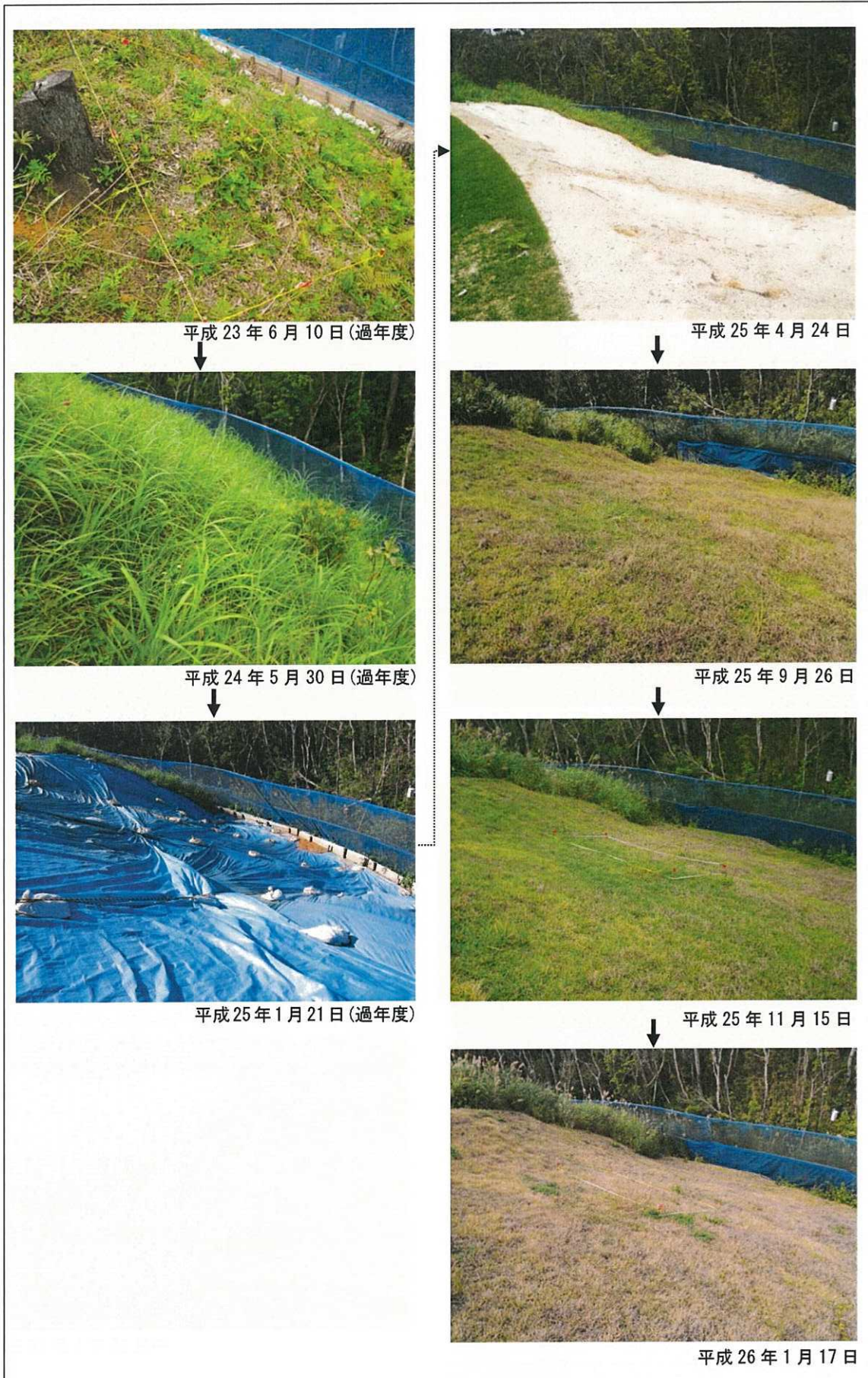


図 6.2.2-24 無障害物の植生状況の推移 (N-4.1 西側)